

~~~~はじめに~~~~

「なぜ毎年合格者を輩出できるのか？」皆さんのその問いに、本書を通してお答えしていきたいと思います。

平成11年に合格し、それまでの大学講師から予備校講師に変わった私が、それまでと違って意識したのが『合格という結果』でした。

「合格させるにはどう教えればよいのか？」1年目から随分考え、その結果辿り着いたのが『受験生の視点を変えさせる』ということでした。

「何年勉強しても合格できない。」「過去問を覚えるほどやっているのに合格できない。」という受験生の思考は非常に硬直化していて、本番での問題に柔軟に対応できなくなっています。もはや知識を増やすだけでは合格という高い壁を突き破ることはできません。

そこで、当時基礎講座終了後の受験生を対象とした講座を担当していた私は、過去問等を使い問題をどう読み解けばよいのかを徹底的に指導することにしました。その結果、講師1年目から面白いように合格者を出すことができました。

ところが、講師になって4年目、基礎講座の担当に変わった時、私は大きな岐路に立たされました。法律知識ゼロの人を短期合格させるためには、それまでの方法だけでは不十分だったからです。

基礎講座の講師を始めてからの半年は、これまでの講師生活でも悩んだ時期です。しかし、この時期があったからこそ、現在も毎年一発合格を含む短期合格者を出し続けられているのだと確信しています。

その時に私が出した答えは、『自分の教えたいことを教えるのではなく、受験生の消化できることを受験生の成長に合わせて教える』というものでした。一見、皆さんからすれば当たり前のことに聞こえるかもしれませんが。しかし、どんなに講師が「少しでも早く点数を伸ばしてやりたい」という思いで『合格に必要な知識』という種を蒔いても、それを受け取る土壌ができていなければ花を咲かせることができないのです。それに気付いた私は、基礎講座担当の半年後から受講生の『教えられる力』の向上にも精を出すようになりました。そのノウハウを公開したのが本書です。

受講生の顔を“よく見ながら”講義をする。それによって自ずと土壌作りができるようになりました。勉強開始からの時期に合わせて、説明の仕方や過去問の使い方の指導内容を変え、あらゆる手を講じました。

その結果、確実に以前より多くの受講生が情報の波に呑み込まれることなく、主体的に受験勉強を進められるようになったと思います。

私のクラスの合格者の経歴はさまざまです。高卒もいれば大卒も、また学生もいれば社会人や主婦もいます。つまり、それまでの彼等の経歴はまったく関係がないということです。

ただ、彼等には共通点があります。それは私の話を柔軟に取り入れながら、なおかつ主体的に勉強していたという点です。

誰にでも合格のチャンスがあります。しかし、一度道に迷うとゴールへ続く道を再び独りで見つけるのは至難の業です。道に迷う前に、また、もし貴方が迷ってしまったのであれば、本書がゴールへの道を見つけるための手助けとなるはずです。

目次

はじめに

本書の使い方 6

第1章 合格への道 9

1	合格曲線を描け	10
2	教えられ上手	13
3	ストレスの正体	15
4	ノート進化論	17
5	記憶術	19
6	時間活用術	21
7	『暗記型』と『理解型』	23
8	自分流勉強法	25
9	付箋の魔術師	27
10	ラインマーカーは両刃の剣	28
11	『知ってる』のレベルの違い	29
12	木村流・情報の『整理』『整頓』	31
13	原則と例外	33
14	条文の魅力	35
15	問題に強くなる5つの方法	37
16	戦略的問題演習の方法～正答率を使え	39
17	答練100%活用術	41
18	判例理解の鍵	44
19	合格のある場所	46
20	全力を尽くすための5カ条	47

第2章 ライブ講義「法律を楽しく勉強する」 49

第3章 過去問分析勉強法 61

1	二段階の分析 (会 18-31-オ).....	62
2	基本の重要性 (民 23- 5-ア) (民 22- 6-ア).....	65
3	理解は正確に (その1) (民 12- 7-ウ).....	68
4	条文の射程範囲 (民 23- 5-イ).....	72
5	視点～「当事者」(民 15- 6).....	74
6	制度の位置づけ (民 23- 6-イ).....	77
7	限界事例 (民 20- 7).....	78
8	比較の重要性と弊害 (民 16- 7-ア) (民 19-17-ウ).....	82
9	視覚化して解く (民 20- 8-イ).....	84
10	権利の帰属の問題 vs 対抗問題 (民 10-14-ア).....	88
11	権利の帰属の問題 vs 対抗問題 (動産バージョン).....	92
12	見解問題～共通する批判を押さえる (民 23- 7-ア) (民 20- 4-ウ).....	94
13	条文解釈 (民 16-13-ア).....	98
14	理解中心の勉強 (民 17-10-オ).....	100
15	バランス感覚 (民 14-11-オ).....	103
16	体系の理解 (民 22-10) (民 20-13-ア).....	105
17	実体法と手続法 (民 18-13-ウ).....	109
18	判例の押さえ方 (民 23-12-イ).....	112
19	トリックを見抜く力 (民 18-16-ウ).....	114
20	見解問題～ベクトルで解く (民 17-19).....	117
21	法的根拠 (民 21-16-ア).....	120
22	詰めの甘くない勉強 (民 11- 7-オ).....	122
23	グレーゾーン (民 18-15-ア).....	124
24	理解は正確に (その2) (民 22- 7-オ)と(民9- 7-イ)...	129
25	総論と各論 (民 19-20-ウ).....	131
26	前の肢に引きずられるな! (民 19-17-イ).....	135
27	改正の問題 (民 23- 8-エ).....	137
28	趣旨→条文 (会 19-29- 1).....	139
29	イメージ (具体例) が勝負を分ける (会 20-32-イウ) (不登 23-25- 1).....	141

30	角度を変えてみる（会 23-31-ア）.....	144
31	科目を超えたクロスリファレンス（商・会 23-35-イ）.....	146
32	混同の解消（民訴 23- 3- オ）.....	149

第4章 科目別勉強法 153

第1節	午前部.....	155
1	憲法.....	155
2	民法.....	163
3	刑法.....	170
4	商法・会社法.....	178
第2節	午後部.....	186
1	民訴系（民事訴訟法・民事執行法・民事保全法）.....	186
2	供託法.....	196
3	司法書士法.....	201
4	不動産登記法〈択一〉.....	204
5	商業登記法〈択一〉.....	215
6	不動産登記法（記述式）.....	222
7	商業登記法（記述式）.....	232
	おわりに.....	243

本書の使い方

資格試験は短期決戦です。長期戦になると、モチベーションも低下し、勉強もマンネリ化してしまいます。まず「来年キメる」という意識で勉強してください。

ただ、むやみに勉強するだけでは短期決戦には勝てません。そこには戦略が必要です。

本書は「どのように勉強していけば、確実に実力がつき合格できるのか？」について講師の立場から書き表したものです。

まず第1章が勉強の方向性を示した総論部分です。この章にある20項目は、「基本的な考え方から実践的な方法へ」といった順で書いてありますから、現在の状況に応じて読み進めてください。

次の第2章は、わたしのライブ講義です。この章は、初級者・上級者を問わず楽しめるものになっています。

法律の勉強は、具体的に考えれば考えるほどおもしろくなっていきます。この章は、事例を使った勉強がどのようなものかを、まさに『具体的』に示しています。普段の勉強に大いに役立ててください。

第3章から各論です。「合格にはどのような勉強が必要か？」を、過去問分析を通して実践したものです。

ただ、取り上げた過去問及び説明に難易度があります。そこで過去問を比較的やさしい「レベル1」から難しい「レベル3」まで3段階に分けています。

また、このレベル分けはあくまでも問題自体の難易度に合わせたものなので、“視点の重要性”においてレベル1・2・3の間で違

いはありません。重要度別のランク分けではありませんから、勉強の進んでいる方も、是非すべての問題に目を通してくださいね。

	第3章項目番号
レベル1	1、2、3、4、6、7、8、9、13、14、16、17、18、21、22、29
レベル2	5、12、15、19、23、25、26、27、28
レベル3	10、11、20、24、30、31、32

なお、本書の目的が「勉強法を示す」点にあることから、過去問の肢ごとの解説はほとんどしていません。過去問の詳しい解説は、また別の機会に行う予定ですので、楽しみにしててくださいね。

最後の第4章が科目別勉強法です。この章は、第3章の過去問分析勉強法をさらに科目の特性に応じて分析したものです。

そのため、第3章と同じように取り上げた過去問に難易度がありますので、レベルに応じて問題部分を後回しにしてもかまいません。とにかく、参考になりそうなところをドンドン拾ってってください。

本書は、勉強開始から合格までを見据えて書いたものです。

勉強方法に迷ったら、再び本書を手にとってください。必ずヒントが見つかるはずです。

